

戸川殘花 （残花の） 詩人、俳人、史論家。安政二年十月二十一日江戶生れ、大正十二年十二月七日歿（八五―九四）。丹後國宮津城主松平宗資（治者守）の三男、戸川安行の養嗣子。本名安宅、幼名達人、達若、別號巽翁、殘花生、殘花道人、百合園主人、貉翁、釋宗鑑、戸川殘華等。慶應義塾、築地學校等へ學ぶ。明治七年受洗、十六年以降略十年布教に従事。二十六年創刊の雑誌『文學界』に詩文を發表し、二十八年發足の秋聲會に加入して爾後俳誌『俳聲』、『半面』等へ執筆。三十年『舊幕府』を創刊主宰。また明治女學校、日本女子大學の教鞭を執り、紀伊徳川家南葵文庫主任を務めた。

譯著書、イ、ジエー、グースピード著『（むい）ムンキーン（ムン）氏小傳』（本名、譯、明治二十二年七月二十一日米國派遣官教師事務局、大阪音社）、

デー、エル、ムーデー著『天路』（同、譯、明治二十五年五月十九日警醒社書店）、『徳川武士銘々傳』（明治二十七年六月十九日博文館）、『世界二大宗教』（明治二十八年十月二十一日博文館）、『二

百諸侯・全』（明治二十年二月十四日博文館）、『青葉集』（今暮、石橋哲次郎編、明治二十年十一月二十三日文芸社）、『水師ネルソン（水師）提督ネルソン

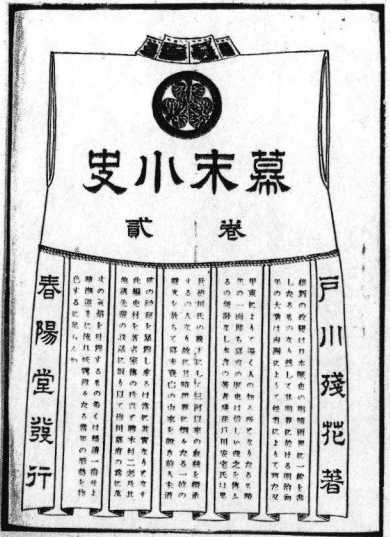
傳』（明治二十一年六月八日警醒社書店）、『幕末小史』全二冊（卷一、明治二十一年六月二十五日、卷

二、八月十九日、卷三、二十一年四月十四日春陽堂）、『河井鑑之助』

（明治二十一年十二月六日博文館

『少年讀本』）、デー、エル、ムー

デー著『神なる救主』（内題「神なる救ひ主」）、『確實なる救』、



『教訓の言』、『背教者』、『一個の心』、『主なる基督』、『悔改』
(以上本名、譯、各明治二十二年五月十五日警醒社書店)、『夏廬冬
齋(附録花の下露)』(合著・松田寅熊編、明治二十四年六月、二十四
日俳聲發行所「俳聲叢書」)、新體詩集『五彩雲』(合著・石橋虎夢編、
明治二十八年十一月十一日文學同志會)、『男學生生氣質(附錄學生消夏
法)』(合著・新八公論社—高島大圓編、明治二十九年二月、二十九日鶴
聲堂書店)、古今『今名流俳句談』(合著・沼波續編、明治四十一年
八月、二十八日内外出版協會)、『海舟先生』(明治四十三年二月、二十
五日成功雜誌社)、『新論語』(合著・成功雜誌社編、明治四十三年
六月十日成功雜誌社)、『江戸史蹟』(明治四十五年四月、二十四日内
外出版協會)、『古今の婦人』(合著・福島四郎編、大正元年九月十
六日婦女新聞社)、大正『大正』(編、大正七年十二月、二十日清和堂書店)
店)、遺稿『大井の春と秋』(大正十五年一月、二十五日兵庫・小林淇
水齋刊、戸川家)等。